



仙台城跡にそびえた伊達政宗騎馬像、折からの政宗ブームで像の周囲は連日ぎわいを見せている。今は悠然と仙台野を睥下すこの像が、政宗と同じように数奇な運命にほんろざされたと、あるいは塚田町出身の彫刻家、小室達（こむろ・とむる）が心血を注いで作り上げた傑作であることを、ご存じだろうか。第二次世界大戦中、まるで生きた武将でもあるかのごとく、場所から姿を消したことなきを知る人は今や少ない。私は、藩祖公の銅像を作るため生まれきたたと通った小室は、消えた騎馬像に心を痛めながら、復元される前に世を去った。騎馬像がたぎった劇的な歴史を、小室の日記や人々の証言を基に再現したい。

――十三回続きの予定――

（大河原支局・赤岡記者）

政宗騎馬像余話

小室達・日記から



▷ 1

東京都京浜区永福の小室 紙。二十五年、河北新報と台
が古ぼけたスクラップブック
が残っていた。小室の作品を
紹介しな新聞の記事を、小
室目切り抜いて丁寧に張り
付けていたのである。伊達政
宗騎馬像の記事も一冊にまと
められていたが、その版後に
近いページに、痛ましき切り
抜きが貼った。

「藩祖公銅像」の政宗公
傳りて運る
寛政の夜青葉神社へ
昭和二十一年十月十日付の
夕刊（ついで）河北新報編集
なべやかま同
じに海監船に宿
かされたものと
思われていたころ、敗戦の
大きな錯誤をのまかず鉄

傷だらけの復讐

にもなり切れないはじめに幾
がいとなって発見され、奇し
くも青葉神社祭
典前夜の八日
宵祭りに三年ぶ
りに社殿の奥に
戻った！
戦時中の重需
用の金属回収で
撤去された騎馬
像が、塩釜の金
田區塩釜所で偶然
見つかったのは、
終戦直後の
二十一年一月の
発見者は、当時
果敢労働に勤め
郷土史家でもあ
つた石川謙吾
（故人）である。
石川は「その
ままくず鉄にし
てしまうのは忍
びない。ぜひ仙
台へ戻したい」
とあちこち奔走
した。だが、だ
れも相手にして
けなかつた。
敗戦直後でもあ
り、みんな生き
るだけで精いつ
ぱいだっただら
う。

危うくくず鉄に

にしてくれる者がなく、銅像
復讐の話はそのままと切れ
ていた。そのうち塩釜をおい
おい整理が進
み、今年（二十
二年）六月な
つて保管から
最後の運びが
あった。そこで
石川さんもおむ
を導す、銅像を
個人として買い
取り仙台へ運ん
だ」と記されて
いる。

記者の質問に
答えた石川の話
がなかなか興味
深い。「他人の事
をかくても遠
慮をかけるも
と、小室の死から十一年もた
つた三十九年、あの華やかな
東京オリレックの開会式の
前日だった。
小室の無念、いかばかりだ
つたらうか。（敬称略）

いまたに残念なこと
す。塩釜の保管の妻君がく
ず鉄の中からこれだけは。惜
しいことだ、と丁寧に扱った
ということだ。」
こうして政宗公は下半身と
両腕、愛馬を奪われながらも
仙台に置かれた。生けるが
ごとき眼光は遺のままだと一
点の曇りもないといえ、むご
い。復讐。だった。
終生、きめ細やかな日記を
書き続けた小室は、この年に
は戦後の物不足のせいでもあ
ろうか、長文の日記はけげん
感傷を一切排したメモしか残
していない。
10・16 石川謙吾先生ヨリ
政宗公銅像復讐セリト通知
二接ス。即チニ返書ス。
11・1 塩釜行、金属回収
所ヲ訪ネ政宗像ノ実情ヲ確カ
メル。四分一程度ノ断片ガ
垣ノ片隅ニ放置。
11・7 政宗御像ノ歓迎
式。全身傷損ノ公ノ胸像ヲ拜
シ感無量ナリ。